

平成30年度関西支部総会を開催

7月9日（月）、（一社）日本航空宇宙工業会の平成30年度関西支部総会が活況のうちに開催された。関西支部は、昭和29年9月、当時の日本航空工業会役員会で設立が決定されて以降、大阪府、京都府、兵庫県及びその周辺地区の航空宇宙関係企業を対象に、勉強会、講演会、工場見学会などを実施してきている。

支部長は、住友精密工業(株)、(株)島津製作所、川崎重工業(株)、新明和工業(株)が歴任し、現在会員会社21社を構成メンバーとして活動している。

航空宇宙分野において、地域として結集し、技術力、生産能力等を高める動きが活発化していることを考慮すると、関西地区会員会社の意見交換、議論の場として、活動内容の充実を図っていく必要がある。

平成30年度総会と当日実施された講演会の概要は次のとおりである。

1. 日 時：平成30年7月9日（月） 13：30～18：30
2. 場 所：住友精密工業(株) 本社
3. 出席者：（関西支部）濱田克彦支部長以下、会員21社中17社31名
（本 部）今清水浩介専務理事、武藤総務部部長
4. 当日の行事：
 - (1) 総会（13：30～14：10）
 - ①支部長挨拶：濱田支部長
 - ②本部挨拶：今清水専務理事
 - ③平成29年度関西支部事業報告：濱田支部長
 - ④平成29年度本部事業報告：武藤総務部部長
 - ⑤平成30年度本部事業計画：武藤総務部部長
 - ⑥支部役員紹介：内匠事務局
 - (2) 講演会（14：20～15：10）

演題：「日本とともに歩むロールス・ロイス；現況と将来戦略」
講師：ロールス・ロイス ジャパン株式会社 社長 露久保 治彦氏
 - (3) 工場見学（15：20～16：50）
 - (4) 懇親会（17：00～18：30）

関西支部の組織と活動

○ 関西支部会員会社（21社、五十音順）

インターナショナルタースクフォース(有)、川崎重工業(株)、川西航空機器工業(株)、京セラ(株)、(株)神戸製鋼所、(株)ジェイテクト、(株)島津製作所、新日鐵住金(株)、新明和工業(株)、(株)ジーエス・ユアサテクノロジー、住友精密工業(株)、双日エアロスペース(株)、(株)ダイセル、(株)寺内製作所、ナブテスコ(株)、日立金属(株)、(株)日立製作所、(株)フジキン、三井精機工業(株)、三菱スペース・ソフトウェア(株)、森村商事(株)

○ 支部長・副支部長

支部長：住友精密工業(株)	代表取締役 副社長執行役員 濱田 克彦 氏
副支部長：(株)島津製作所	取締役 専務執行役員 航空機器事業部長 藤野 寛 氏
同：川崎重工業(株)	執行役員 航空宇宙システムカンパニー バイスプレジデント 植竹 芳裕 氏
同：新明和工業(株)	取締役 常務執行役員 航空機事業部長 深井 浩司 氏



総会風景

今清水専務理事挨拶（要旨）：

本日は関西支部総会にお招きをいただき、誠に光栄に存じます。

総会開催にあたり、ご尽力を賜りました支部長会社 住友精密工業の皆様
様に感謝を申し上げます。

航空宇宙産業は、先端技術産業として、技術立国であるわが国の技術を
をリードし、安全保障にも直結する重要な産業であります。世界各国は、
航空宇宙産業を戦略産業の一つと位置づけ、積極的な取り組みを進めて
おりますが、新興諸国の台頭も目覚ましく、内外の市場では厳しい競争が
展開されております。こうした厳しい環境の中で、わが国の航空宇宙産業
の生産額は平成26年度に2兆円を超えた後、引き続き2兆円産業として現
在に至っております。



今清水専務理事 挨拶

規模の拡大と併せて、防衛・民間・宇宙の各分野で様々な事業が前進
いたしました。民間航空機分野では、ボーイング777X初飛行に向けた開発、PW1100G-JMエンジ
ンの量産開始など、国際共同開発プロジェクトは順調に進んでいます。MRJは7月のファンボローエ
アショーで初の飛行展示を行うことになりました。ホンダジェットと併せて、我が国の完成機ビジネス
の発展に期待が膨らむ明るいニュースです。今後もボーイング社やエアバス社等との国際共同開発
における主要な開発パートナーとしての地位を質・量ともに向上・拡大させていくと同時に、当工業
会を構成する機体システム・装備品・電気・素材等すべての分野において、経営資源の有効活用促
進や産業基盤の維持強化に努めて参ります。

日本の航空機産業は防衛分野と民間分野がシナジーを發揮し互いに発展してきました。防衛分
野で蓄積された先端技術が1980年代以降各社において民間分野を技術的に牽引してきた結果、現
在民間分野において世界的に競争力のある生産体制が確立されています。この優れた生産体制を
防衛分野で活用するとともに将来の民間分野をも牽引していく新しい防衛事業（例えば将来戦闘機
等）の我が国主導の開発等が重要であり、防衛省の「防衛大綱の見直し」と「次期中期防整備計
画の検討」に合わせて、当工業会は昨年9月に「将来戦闘機国内開発の早期立ち上げに関する要
望書」を防衛省に提出しました。引き続き、防衛省や経済産業省をはじめとする関係当局と連携し
つつ、国際的な防衛産業間対話などを進めることにより、最新技術の獲得や防衛生産・技術基盤
の維持・強化に努めてまいりたいと考えております。

宇宙分野では、昨年度、過去最大規模の7機のロケット打上げに成功しました。昨年10月の準天
頂衛星4号機の打上げにより、H-IIA・H-IIBロケットは連続30回の成功となり、成功率は97.6% (=41/42)
に達しました。とりわけ、準天頂衛星システムは4機体制が完成し、日本独自の高精度測位技術に
よる新たなサービスの提供が始まることとなりました。宇宙分野では政府の「宇宙ビジョン2030」に
おいて、宇宙利用産業も含めた宇宙産業全体の市場規模（現在1.2兆円）の2030年代早期の倍増
を目指すと言われています。当工業会は、引き続き、新たな「宇宙基本計画」に示された具体的
な目標の達成に協力するとともに、海外市場における打上サービスや衛星の受注拡大、利用産業の創
出等、積極的な国際市場への参入に努めてまいります。

また今年11月にはビジネスに特化した展示会「JA2018 TOKYO」を東京ビッグサイトと共催する運
びとなりました。これは経済産業省、防衛省、地元自治体・経済団体及び全国の中小企業と連携し、
新たなビジネスチャンス創出を図るものであり、その成功に向け、準備に万全を期して参ります。

以上、当工業会は、航空宇宙産業の更なる発展に向け、諸事業を推進してまいります。皆様方
には、引き続き一層のご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

濱田支部長挨拶（要旨）：

今年度の関西支部総会の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。この度、前支部長の深井様にかわり、新たに選任されました濱田でございます。皆様のご支援を得ながら、任務を果たして参りたいと思っております。よろしく願い申し上げます。本日はお忙しい中、皆様にお集まりいただきありがとうございます。また、工業会本部から今清水専務理事様、武藤総務部部長様には遠方よりお越しいたきまして厚くお礼を申し上げます。

さて、現在国際社会は大きく動いております。とりわけ、急展開を見せているのが朝鮮半島情勢です。今年初めに韓国で行われた平昌（ピョンチャン）冬季オリンピックへ北朝鮮が参加したのを皮切りに、4月27日には、板門店（パンムンジョム）で南北首脳会談が行われ、更には、6月12日にシンガポールで開催された米朝首脳会談へと展開しており、歴史が動こうとしているのではと感じずにはいられません。今後も朝鮮半島をめぐるニュースが続きそうです。

一方、貿易摩擦の問題も勃発しております。米国はTPP撤退、パリ協定離脱、イラン核合意離脱、鉄鋼とアルミニウム製品への高関税措置に続き、知的財産権侵害を理由に中国製品に対して25%の関税を課す貿易制裁措置を表明しております。これに対して中国は報復措置として、米国からの輸入品128品目に最大25%の関税の上乗せをするなど、世界の分断と対立を招いており、今後の日本経済においても急激な円高や株安など予期せぬ事態が引き起こるのではないかと、危惧する次第でございます。

このような状況ではありますが、我が国の航空宇宙産業は比較的堅調に推移しております。日本航空宇宙工業会による2017年度の航空機生産額は、機体、エンジン、装備品等を合わせて前年度比316億円増の1兆7374億円となっており、防衛及び民間共に増加しております。防衛向けではP-1固定翼哨戒機、C-2輸送機などの量産により安定的な生産が確保できており、民間向けではボーイング777は減産に入っておりますが、787の受注は堅調に推移し、2019年以降も増産が見込まれております。

また、ホンダジェットが日本市場での受注を開始し今後さらにマーケットの拡大が期待されます。宇宙分野においてもH-IIAロケット39号機が打ち上げに成功し、今後さらに世界のマーケットでの活躍が期待されます。長期的に見ても、我が国の航空宇宙産業は拡大基調にあると考えます。

このように明るい話題は多くありますものの、日本の航空宇宙産業は他の産業分野に比べて、まだまだ規模が小さい状況にあるといえます。航空宇宙産業は我が国の安全保障の根幹を担うとともに、国の成長戦略分野であり技術的に高度な分野であることから、他の産業分野を牽引していくチャンスもあり、また責務でもあります。

今後の旺盛な航空需要の中で世界に取り残されることなく成長していくためには、国際共同開発等を通じて各プロジェクトへ参画し、様々な能力が求められるなかで、日本の設計開発の技術力、モノを製造し供給する製造能力、そして運用段階でのサービスを提供するアフターマーケットの拡大を一歩ずつ進めていかなければならないと考えます。日本企業が厳しい競争に勝ち残り、世界市場において更なる成長と発展をしていけるように頑張ってお参りしましょう。

関西支部は創設以来、関西地域における航空宇宙関連企業を対象に講演会や工場見学を行いながら、航空宇宙産業を発展させるための有意義な意見交換、議論の場であると考えております。この会を通して皆様方の会社の成長と発展に繋がることを願っております。今後も関西支部の活動に尽力してまいりますので、皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。



濱田支部長 挨拶

講演「日本とともに歩むロールス・ロイス；現況と将来戦略」（要旨）：

ロールス・ロイス ジャパン株式会社
代表取締役社長 露久保 治彦 氏

この度はSJAC関西支部総会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

本日、弊社ロールス・ロイスの日本における活動及び戦略（調達、サービス、パートナーシップ）、そして未来を見据えた戦略（先端技術開発等）について包括的にお話させていただく機会を頂戴しましたこと、お礼申し上げます。

弊社と日本との歴史は110年以上に及びます。一時期の不幸な時代を乗り越え、日本の産業、特に自動車と航空宇宙産業分野における目覚ましい発展には、英国企業として大いに敬意を表するとともに益々のご活躍を祈念します。

弊社製品やシステムには多くの日本企業皆様から納入いただいている製品が組み込まれております。ロールス・ロイスは日本における防衛省様向け最大のガスタービンエンジンサプライヤーであり、現在、1,000基以上の船舶、航空機用ガスタービンエンジンが稼動しています。民間航空機部門においても、日本で大きく躍進しています。全日本空輸（ANA）様は、ボーイング787型機の導入に際してロールス・ロイス製Trent 1000エンジンのローンチカスタマーになりました。また、来春からホノルル向けに運行が始まるA380にもTrent 900エンジンが搭載されます。日本航空（JAL）様へは2019年夏から運行が始まるエアバスA350（900型及び1000型）にTrent XWBエンジンを納入します。

ロールス・ロイスは英日および世界の航空宇宙産業の更なる発展に向け、日本企業様との協業を推し進めてまいります。皆様方には、今後とも一層のご指導、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



露久保 治彦 氏 講演

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 総務部部長 武藤 栄一郎〕